

人はなぜ、同じ間違いをくり返すのか◎目次

はじめに——間違えることは怖くない……………3

## 第1章 人は間違える動物である

「間違える」とはどういうことか……………	12
「コンピュータは絶対に間違えないか?」……………	14
頭がいいから間違えない、わけではない……………	16
「頭がいい」とはどういうことか?……………	18
試験に強い人、弱い人……………	21
「4×3」は正解で「3×4」が間違っている?……………	26
「1×1」でつまづくヨーロッパの子どもたち……………	30
日本人が計算を得意としている理由……………	32
なぜ点数は大事ではないのか……………	34
「答えを知らなければ考える」という習慣がなくなった……………	37

「わかる」ということが「わからない」……………	39
間違いに気づくために必要なこと……………	43
ある自動車メーカーの「間違い」……………	46
アメリカと戦争して勝てると思った「大きな間違い」……………	48

## 第2章 「間違い」の本質を探る ——どんな人が、どんな間違いを犯しやすいか

7つの思考タイプからわかる「間違い」の特徴……………	54
(1) 落雷型——なにかひらめいたらすぐにそれに飛びつく……………	55
思い込みが激しいのでケアレミスも多い……………	56
落雷型と上手に付き合うには証拠や証人を残すこと……………	58
(2) 猫のお化粧型——同じことをくり返してばかりいて前に進まない……………	60
無駄がなく、ひらめきがあるのが天才?……………	62
書き出すことで視野を広げるきっかけ……………	64
経験値の不足が「猫のお化粧型」の大きな原因……………	66

〈コラム〉 落雷型と猫のお化粧型の違いとは？……………	68
(3) めだかの学校型——群れるのが好きで付和雷同に慣れている……………	70
日本の教育は幼稚園から大学まで「めだかの学校」……………	71
悪いこともみんなやれば怖くない、という間違い……………	73
「めだかの学校型」は永遠には続かない……………	75
遠出をしなくても「脱めだか」が実践できる……………	77
普段から「問題意識をもつ」ことが重要……………	79
(4) 違っても黒豆型——頑固徹で自分の間違いを認めようとしない……………	80
客観性を欠く思い込みは重大事故のもとになる……………	83
感情論ではなく損得で説得する……………	84
(5) 馬耳東風型——反対意見も賛成意見も聞こえる都合のよさ……………	86
「馬耳東風型」は女性に多い？……………	87
馬耳東風型と仕事をするときは味方をつけて対処する……………	88
(6) お殿さま型——下々の痛みや苦しみが理解できない……………	90
部下に迷惑をかけても悪気がないのが特徴……………	91
居酒屋で「お殿さま」の悪口を言い合うのも悪くない……………	93

(7) 即物思考型——抽象的なことを考えるのが大の苦手……………	95
丸暗記するだけでは応用がきかない……………	97
抽象的な思考を助けるために具体的な例と結びつける……………	98
具体例と反例を考えることによって抽象的な概念をつかむ……………	100

### 第3章 「間違えること」の意義 ——考える力を養うために

言葉を知ってわかった気になる危うさ……………	106
学校は「間違い」が許される場所……………	108
「間違えさせる授業」で考える癖をつける……………	112
「難問・奇問」こそ、考える力を養う……………	115
大学入試までなら「覚える」ことで解ける……………	119
ネットの普及で暗記の価値は下がってきた……………	121
考えて考え抜くことで解決することがある……………	124
考えることの価値は今後ますます高くなる……………	128
「知らない」と「わからない」の違い……………	130

## 第4章

### 「間違い」から何を学ぶか —— どうしたら間違いを生かせるか

「いい間違い」と「悪い間違い」はどこが違うのか……………	136
事後処理の手順で「間違い」が大きく変わる……………	140
落ち込むことと反省は違う……………	143
反省に至らない4つのケース……………	145
反省の邪魔をする3つの要素……………	148
公平に見る目を養うためには——ディベートは役に立たない……………	152
考えつくしたなら放っておいてもいい……………	155
「プラスの反省」が再発防止に役立つ……………	158
視点を変えることで盲点を減らしていく……………	161
ものごとを俯瞰して見ることの大切さ……………	167